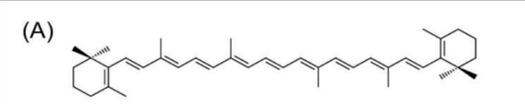
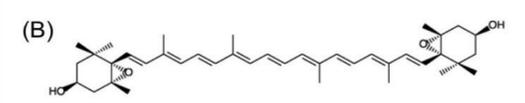
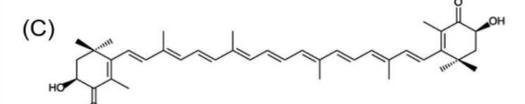


バイオサイエンス学科 論文発表

【発表者について】 アンダーラインは本学教員および研究員、※は大学院生、卒研生または卒業生

<p>題名</p>	<p>カロテノイド：その多様性と普遍性が切り拓く新展開</p>
<p>掲載雑誌</p>	<p>植物科学の最前線 (BSJ-Review) BSJ-review-9B:46-49 (DOI: 10.24480/bsj-review.9b1.00133)</p>
<p>著者</p>	<p>篠村知子【植物分子細胞学研究室】</p>
<p>概要</p>	<p>本論文は、日本植物学会第81回大会（2017年9月、東京理科大学野田キャンパス）で開催されたシンポジウム「カロテノイド：その多様性と普遍性が切り拓く新展開」の発表内容をもとにまとめた総説です。カロテノイドを生産するのは植物と藻類と、ごく限られた種類のバクテリアと菌類に限られていますが、ヒトをふくむほとんどの生物がカロテノイドを利用しており、医療や健康科学分野でも注目を集めています。本総説では、そのような幅広いカロテノイド研究のトレンドと概要を解説しています。</p> <p>本研究の一部は科学研究費補助金(基盤研究C)の支援を受けました。</p> <p>本論文はオープンアクセスなので、下記のサイトで閲覧可能です。</p> <p>http://bsj.or.jp/jpn/general/bsj-review/BSJ-review-9B%2046-49.pdf</p>
<p>関連画像</p>	<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>(A) </p> <p>(B) </p> <p>(C) </p> </div> <div> <p>代表的なカロテノイドの構造</p> <p>(A)β-カロテン; 炭素と水素原子のみで構成されるカロテン類の代表的なカロテノイド</p> <p>(B)ピオラキサンチン; 分子内に酸素原子を含む官能基をもつキサントフィル類の一種</p> <p>(C)アスタキサンチン; 強力な抗酸化作用をもち、食品、機能性サプリメント、化粧品、飼料および水産養殖分野で利用されているカロテノイド</p> </div> </div>